

PKF-PRAGUE PHILHARMONIA

Jakub Hrůša, Conductor Mischa Maisky, Cello

ベルリン・ドイツ響、BBC響、バーミンガム市響、ゲヴァントハウス響…

世界の名門オーケストラから招かれ、その評価を確立している、

今まさに旬の指揮者フルシャが、

手兵プラハ・フィルハーモニア管弦楽団と共にKitaraiに帰ってきます。

今回は、渾身の演奏で聴く者の魂を揺さぶるチェロの巨匠マイスキーを迎え、

チェコを代表する名曲の数々を、熱きポヘミア魂で謳い上げます

ヤクブ・フルシャ (指揮)

Jakub Hrůša, Conductor

1981年チェコに生まれる。現在、プラハ・フィルハーモニアの音楽監督兼首席指揮者ならびに、東京都交響楽団首席客演指揮者。これまでにチェコフィルハーモニーのアソシエート・コンダクター (2002-3)、フランス放送フィルハーモニーのヤング・アソシエート・コンダクター (2005-6)、ボフスラフ・マルティヌー・フィルハーモニックの音楽監督 (2005-8)、プラハ・フィルハーモニアの客演指揮者 (2005-8) グラインドボーン・オン・ツアーの音楽監督 (2010-12) を歴任。

指揮をプラハ芸術アカデミーでピエロフラーヴェクに学び、2004年の卒業以来、チェコの主なオーケストラ、国民劇場に度々招かれ、自国での揺るぎない評価を獲得。同時に世界各地のオーケストラに客演。ゲヴァントハウス管、シュツットガルト放送響、ベルリンドイツ響、バーミンガム市響、BBC響、フィルハーモニア管、クリーヴランド管、ロサンゼルス・フィル始め、次々とデビューが続いている。2011年のグラモフォン誌においては、巨匠となる可能性の高い10人の若手指揮者のひとりとして名前が挙げられている。

音楽監督を務めるプラハ・フィルハーモニア管弦楽団とは、2010年に、プラハの春国際音楽祭65周年記念となるオープニング公演に史上最も若い指揮者として招かれ、スメタナの「我が祖国」を演奏して、国際的な注目と評価を集めた。2012年には、同団と待望の日本ツアーを実現した。



ミツシャ・マイスキー (チェロ)

Mischa Maisky, Cello

ラトヴィア共和国生まれ。ロシアで学び、のちにイスラエルに移住。以後、ロンドン、パリ、ベルリン、ウィーン、ニューヨーク、東京をはじめ世界の主要コンサートホールで演奏活動を展開、熱狂的な支持を受け続けている。

マイスキーは、自らを「世界人」と位置づける。「イタリア製のチェロにオーストリアとドイツ製の弦を張り、フランスとドイツの弓で弾いています。娘はフランスで生まれ、長男はベルギーで、次男はイタリアで、末っ子はスイスで生まれました。私は日本の車を運転し、スイスの時計をはめて、インドのネックレスをしています。そして人々がクラシック音楽を評価し、楽しんでくれるところではどこでも、そこで家にいるようにくつろぐことができます。」

ドイツ・グラモフォンの専属アーティストとして、この25年の間にマイスキーは30を超える録音をリリース。そこでの共演もウィーン・フィル、ベルリン・フィルをはじめロンドン響、イスラエル・フィル、パリ管、オルフェウス室内管、ヨーロッパ室内管など多岐に渡る。彼の輝かしいキャリアの中でもハイライトの一つは、2000年の活動である。バッハ・プログラムで実に100以上の演奏会を世界で展開、さらにバッハへの深い尊敬は、無伴奏組曲の3度目のレコーディングという形に結実している。

マイスキーの録音は世界各地で高い評価を得ており、これまでに日本のレコード・アカデミー賞を5回、エコー・ドイツ・シャルプラッテン賞を3回、パリのディスク・グランプリ賞、ディアパソンドール賞の各賞を受賞、グラミー賞にもノミネートされている。

世界を代表するチェリスト、また数々の主要国際音楽祭の常連でもあるマイスキーは、これまでにバーンスタイン、デュトワ、ジュリーニ、マゼール、メータ、ムーティ、レヴァイン、アシュケナーズ、シノーポリ、パレンボイムといった名指揮者たち、さらにアルゲリッチ、ルプー、フレイレ、キーシン、ランラン、P.ゼルキン、クレーメル、バシユメット、レーピン、ヴェンゲロフ、ジョシュア・ベル、ラクリン、ジャニース・ヤンセンほか世界のトップ・アーティストらと共演している。



プラハ・フィルハーモニア管弦楽団 The PKF-Prague Philharmonia

プラハ・フィルハーモニアは1994年に世界的に著名な指揮者、イルジー・ピエロフラーベクの呼びかけにより設立された。活動を始めてほどない1996年に初の公益楽団のひとつとなり、次第にチェコでも最も高いレベルのオーケストラへの仲間入りを果たし、同時にヨーロッパをはじめ世界中で高い知名度を誇るまでに成長を遂げた。

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等のウィーン古典派作品の演奏を通じて獲得したサウンドを核とし、そこにロマン派、20世紀音楽作品、さらにチェコのオーケストラとしては例外的な現代音楽の演奏に取り組むことにより、多彩な表現力を備えている。2008-9年シーズンより、国際的に注目を集める指揮者、ヤクブ・フルシャが、首席指揮者・音楽監督に就任。オーケストラの創始者であるイルジー・ピエロフラーベクは、2005年に桂冠指揮者となった。

プラハ・フィルハーモニアは、世界的に評価の高いホールで頻繁に演奏している。国際的な音楽祭にも定期的に招かれており、アシュケナーズ、ブロンフマン、シフ、サラ・チャン、マイスキー、コジェナー、ネトレブコ、ピリャソフ、ドミンゴなど、世界的に著名な演奏家と共演。現在までに、ドイツ・グラモフォン、デッカ、スプラフォン、EMI、ハルモニア・ムンディなどで60タイトル以上のCDを録音。ヤクブ・フルシャとともにプラハの春音楽祭65周年記念の開幕コンサートを飾った、スメタナ作曲「我が祖国」のライブ録音は、プラハ・フィルハーモニアの現在を代表する録音である。

音楽教育への取り組みも開始し、オーケストラ・アカデミープロジェクトを通じて、若い音楽家を育成している。加えて、チェコ国内として初めて、親子を対象とした特別演奏会をスタートさせており、学校コンサートや、英語の実況解説付きコンサートなどにも取り組んでいる。子供の教育プログラムには、ミュージカル・クラブ活動が含まれており、子供たちの美的才能を育むと同時に、余暇の過ごし方の可能性を拡げている。

プラハ・フィルハーモニアは、チェコ共和国文化省、ならびにチェコ市より助成を受けている。

■プラハ・フィルハーモニア管弦楽団ホームページ/ www.praguephilharmonia.com.

